

# ミャンマー・子どもの未来プログラム

～子どもたちのかけがえのない笑顔のために～

「ミャンマー・子どもの未来（あした）プログラム」では、障がいのある子どもたちの生活や教育を支えてくださる"心の里親"を募集しています。

ミャンマーでは、障がいのある子どもたちは、リハビリや教育を十分に受けられずに育つケースが多くあります。そこで、AAR Japan [難民を助ける会] は、2001年から障がい児支援施設「子どもの家」に通う子どもたちをサポートしてきました。この施設には脳性まひやダウン症、身体障がいのある約260人の子どもが通っており、一人ひとりの障がいや生活環境に応じた訓練を受けています。子どもたちが心身ともに健やかに育ち、地域社会で可能性を発揮していけることを目指しています。

## 障がい児を支える主な活動

- ・ 教育支援（就学、自宅学習など）
- ・ リハビリ支援（歩行、発話など）
- ・ 衛生啓発支援（講習会の開催、衛生用品の配付など）
- ・ 社会参加の促進（遠足、社会見学など）



理学療法士が里子にリハビリ方法を伝えたり、家庭教師が勉強を教えたりするなど、子どもたちの成長をサポートしています。また、衛生習慣を身に付けて、病気の予防ができるように取り組んでいます。

## プログラムの特徴

- ・ 里子に手紙やカードを送付いただけます
- ・ ニュースレター（年3回）が届き、子どもたちの近況や成長の様子を知ることができます
- ・ AARの会報（年4回）、または年次報告書（年1回）が届きます



お寄せいただくご支援は、家庭教師派遣費、医療費、リハビリテーション機器購入費、人件費、運営費など、里子の成長を支える活動に充てられます。

皆さまのご支援を受けながら、成長している子どもたちをご紹介します。



トゥー・ピエ・ゾンくん (9歳)

トゥーくんは脳性まひがあり、脊椎は湾曲し、筋肉が萎縮しています。自力で立つことが困難で、また、呼吸が苦しくなることがありました。しかし、補正具をつけて姿勢を正す方法や、筋肉をほぐすりハビリ方法などを学んだことで、**今では歩行器を使って家の周りを歩けるようになり、呼吸も随分楽になりました。**「日常生活をできるだけ自分の力でしたい」という新たな目標もでき、日々リハビリを頑張っています。



プー・ピエ・ゾンちゃん (10歳)

脳性まひがあるプーちゃんは、はっきりとした発話が難しく、また、うまく体のバランスがとれません。そのため、小学校に通い始めた当初は多くの課題に直面しました。けれども、スタッフによる学校側への働きかけもあり、今は**クラスのみんながプーちゃんの障がいに配慮するようになり、笑顔で学校に通っています。**学校のトイレには手すりが設置され、学習支援教材を使い勉強にも励んでいます。

## 【お申し込み方法】

毎月3,000円のご寄付で、障がい児の心の里親として、ひとりの子どもが20歳になるまでを、継続してご支援いただいております。

### ▼クレジットカード・金融機関からの引き落としの場合

AARホームページより、「寄付で支える」をクリックし、「マンスリーサポーターになる」を選択します。マンスリーサポーターお申し込みページから必須事項をご記入の上、「毎月3,000円」のご寄付金額を選択ください。備考欄には「ミャンマー子どもの未来」とご記入ください。

### ▼郵便振り込みをご希望の場合

AARへお電話 (03-5423-4511) または、問い合わせフォームよりご連絡ください。

※複数の子どもの里親になりたい、プログラム全体を支援したい、などもお気軽にお問い合わせください。



ティン・ザー・ライン  
(AARスタッフ/理学療法士)

「リハビリ支援も教育支援も、すぐに結果が表れるものではありません。だからこそ、**長期にわたり子どもたちに寄り添って支援するこのプログラムには大きな意味があります。**少しでも子どもたちの成長した姿が見れたときの喜びはひとしおです。一人ひとりの可能性を伸ばしていけるよう、皆さまのご支援をよろしく願います。」